

Composition Division
作文部門
受賞者
Award winner

静岡県知事賞

空を見て思うこと

二年 牧野総真

日本にかえる三か月前、マキシーは、びょう気になった。マキシーは、ほごねこで、ぼくが赤ちゃんのころから、ずっといっしょだった。いえには、犬のケンタとザックもいた。三びきとぼくは、ぼくが生まれたときから、いつもいっしょで、まい日たくさんあそんだ。

マキシーは、三びきの中で、一ばん小さかったけど、一ばんつよかった。ケンタとザックは、体が大きけれど、マキシーは、つよくて、元気で、三びきの中のボスだった。

ぼくは、マキシーと、おにごっこをしたり、いっしょにおひるねするのが、大すきだった。マキシーは、お日さまがすきで、よく、三びきと、ぼくで、いっしょに日なたぼっこをした。気づけば、マキシーは、いつもぼくのよこにいた。

ある日、マキシーは、ごはんをたべなくなった。トイレも、上手にできなくなった。へんだなあと思った。

そして、みんなでどうぶつびょういんに行った。おいしゃさんは、マキシーのけんさをした。そのとき、おいしゃさんは、ぼくに言った。「マキシーは、びょう気になっちゃったから、今日さようならをし

なくちゃいけない。いい?」ぼくは、そのいみがよく分からなかった。でも、おかあさんと、オーストラリアのおばあちゃんが、ぼくをだきしめてないで、なにかかないことがあるんだと思った。

いえにかえると、マキシーは、いなかった。おかあさんは、「マキシーは、お空に行ったから、もう会えないんだよ。」と言った。ぼくは、はじめて、「し」と言う言ばを知った。その日は、とてもかない気もちになって、たくさんないで、よるごはんをたべられなかった。

今でもぼくは、よるゆめでマキシーを見る。かなしくて、おきるとないでいる。大切なものがいなくなるって、とてもかないことだ。でも、マキシーが、空の上であそんでいると思うと、かなしくなくなった。日本にきて、空を見ると、よくマキシーのことを思い出す。

ぼくは、今トカゲをかつている。かわいくて、ずっといっしょにいたいと思う。しんだら、すごくかなしいと思う。マキシーは、ぼくに、生きものには、いのちがあること、いつかしんでしまうこと、だから、いっしょにいるじかんを大切にすることを、教えてくれた。今日も、晴れの空を見て、日なたぼっこをするマキシーを思い出していた。